

# 森と共に生きる未来



木の種類について熱く語る益岡さん（自身の工房にて）

高知県は森林率日本一を誇る「森の県」。その豊かな森を守り、未来へつなぐために活動しているのが、私たちジビエ部だ。森林保護を目的に、鹿肉を活用した商品を開発・販売し、その収益を森林保護団体へ寄付している。

今回、私たちは高知県の小さな木工工房「M・CRAFT」を訪ね、森との暮らしと木材活用について学んだ。M・CRAFTは、高知県産ヒノキや杉を使った木製家具や雑貨を製作する工房だ。注文家具は図面通り正確に仕上げ、一方、自ら製作する家具には、『遊び心』を加え、使うほどに味わいが増す。無垢材の作品を生み出す。益岡寿夫さんが手がける家具は、生活感を抑えたデザインも特徴で、ティッシュケースなど日用品をインテリアに溶け込ませる工夫が光る。

今回の訪問で印象的だったのは、鹿などの被害を受けた木材の活用についてだ。被害木は商品化が難しい場合もあるが、小さく加工すればおもちゃや小物づくりに活かせる可能性はある。私たちの活動で守ろうとしている「木」はM・CRAFTにとっては「使う」対象でもある。このジビエ部としての「守る側」と益岡さんと

## 高知の森と人をつなぐ架け橋

## 小さな工房から広がる未来

しての「使う側」という立場の違いこそが、森と人との多様な関わり方を示していると感じた。

森林を守るためには、野生獣による被害を防ぎ、伐った木を無駄なく使うことが大切だ。M・CRAFTの仕事はまさにその実践であり、高知の森の恵みを暮らしの中に届けている。

私たちジビエ部とは異なるアプローチだが、目指す先は同じ「森と共に生きる未来」だ。今回のインタビューを通じ、森と人とのつながりは一方向ではなく、多様な循環の中で成り立っていることを学んだ。食害という森の課題も視点を変えれば新たな資源となり、木工や私たちの食文化へと形を変える。

M・CRAFTとジビエ部は、これからも守るべき森の価値を次の世代へつなぐ。

教えて！  
ますおか かずお

益岡 寿夫さん

益岡寿夫さんに会社のことや働くことのあることを聞きました！



～お仕事編～

Q 仕事を始めたきっかけは？

A 父がもともととしていて、一緒に作っているうちに自分もしたくなったからです。

Q 一番の苦労やりがいは？

A 毎日です。受注家具は図面通りに作るけれど、材料が違っていると長さの誤差が出てくるので、調整するときに頭を使うからです。

～プライベート編～

Q 最近ハマっていることは？

A 家で、ねんどの置物を作るのにハマっています。自分の中にあるイメージで作っています。

Q 仕事とつながる趣味は？

A 家の扉を改良したり、遊び心のあるビリヤード台やホットケーキ台などを作ったりすることです。

～未来・メッセージ編～

Q 作品に込める思いは？

A お客様と直接会うことは少ないけれど、製品を納めて喜んでもらいたいと思いを込めて作っています。

Q 高校生へのメッセージは？

A 若いうちは色々できるので、やりたいことをやって人生を楽しんでほしいです。

### 編集後記

今回、M・CRAFTを訪れました。そこで、木を暮らしの中で活かす工夫に驚きました。工房で実際に木でできている小さな家を手に取った時、温かみと木の香りを強く感じました。森を守ることも使うこともどちらも私たちの暮らしに密接につながっています。皆さんも身近な森の恵みに目を向けてみてください。



高知商業高等学校  
ジビエ部 Bチーム

ハイスクール



# 高知新聞

ものメッセKOCHI2025  
第14回高知県  
ものづくり総合技術展

2025年(令和7年)

11月15日  
土曜日

発行所

高知市立  
高知商業高等学校  
ジビエ部Bチーム

協力  
株式会社高知新聞社

# 号外

取材の様子はコチラ！

ものメッセ  
KOCHI2025

